

山田みやこの活動報告

令和7年5月12、13日（月、火）会派視察

場所：岩手県八幡平市安比高原180-8 ハロウインターナショナルスクール安比ジャパン
ハロウインターナショナルスクール安比ジャパン 足達聖子さんより説明と学校内の案内

ハロウインターナショナルスクール安比ジャパンは450年の歴史を持つ英国の名門私立学校「ハロウスクール」のアジア10番目のインターナショナルスクールで、日本では2022年8月初めての開校となった。

日本の美しい自然環境の中で、世界水準の国際教育と全寮制教育とが融合した唯一無二の経験を提供する学校で、11歳から18歳の生徒を世界中から受け入れ、現在は300名となっている。国際的に認知されている英国カリキュラムを学ぶことで、世界中の名門大学進学への扉を開き、学びに没頭できる学習環境によって最大限の学習成果を導き出し、一生涯学び続ける楽しさを知る。生徒の学びと成長は、安比高原の大自然を活用し、スキー・スノーボード・ゴルフ・テニス・マウンテンバイク等の生涯スポーツ、音楽、美術、演劇などの芸術や社会貢献活動で個人の才能を発掘する。

教育は人であり、信頼できる大人と経験豊かなエキスパートによるサポートや、「ハウス」と呼ばれる寮が自分の家族となり、寮長先生を中心に学習面から生活面まで360度子ども達のケアをチームで行っている。自らが人生のリーダーとなり社会に貢献していくスキルと人格、一生ものの絆を得るユニークな教育。

学費は年間900万円程度と高額。新学年は8月末に始まり翌年6月末に終わる。

授業や試験はすべて英語で行われ3割が日本人。開校以来、県内の様々な場所へ訪問したり、市内の中学生を招いたりするなど積極的に体験学習と交流を積み重ねている。

岩手県と八幡平市は、ブランド力の向上、国内外への知名度アップが交流人口や観光客の増加などの波及効果につながることを確信し、連携事業の取り組みによって市民の国際化への意識が高まることに期待している。

※自然環境を重視した場所ということいくつかの国内の候補地から安比高原が選ばれたという。視察した時期は5月で新緑が美しかったが冬場は2～3メートルの積雪の中での生活という。全寮制と言う中で建物は広くすばらしいが、メンタル的サポートも重要とされ、きめ細やかなシステムとなっていた。

ただ、日本の義務教育システムとは全く違うので、見るものすべてが驚きと別次元の世界という印象がした。



山田みやこの活動報告

場所：岩手県議会

① ふるさと振興部より「ハロウインターナショナルスクールジャパンとの連携による地域振興に向けた取り組み」について説明を受けた。

岩手県では、学校法人H.A.インターナショナルスクールと連携し、学校法人がハロウ安比校の運営を通じ県の行う各種施策に協力いただき県内の地域振興を図る目的で連携協定を締結し、各種取組を実施している。県の建設負担金合計8億2000万円。

1) 協定締結日は 令和4年8月1日

2) 協定に基づく連携事項

- ア. 教育・文化・スポーツの振興に関すること
- イ. 地域資源の活用に関すること
- ウ. 国際化の推進に関すること
- エ. 東日本大震災津波からの復興に関すること
- オ. その他地域の振興に関すること

3) これまでの主な取り組み

- ・ 東日本大震災津波伝承館での震災学習の実施
- ・ 知事による世界遺産出前授業
- ・ スキー競技大会等を通じた交流
- ・ 学年別学習施行による県内訪問（ロングトレイルコース体験）
- ・ 児童養護施設への訪問・交流
- ・ 八幡平市芸術祭への作品展示
- ・ プロスポーツチームの運営ボランティア

4) 今後の取り組み

県内の世界遺産を活用した現地学習や地域との交流、県内ものづくり企業との連携による就業体験、スポーツを通じた地域との交流、県営施設の活用促進など連携協定に基づく各種取り組みを一層推進する。

※ハロウインターナショナルスクール安比ジャパンへの地域振興の期待は非常に大きい。

今後世界のリーダー輩出と、社会貢献度の高い人材育成の実績を目指していくことになる。



② 教育委員会学校教育室主任指導主事より、「岩手県の不登校対策の取り組み」について説明を受けた

1) 一人一台の端末を利用した「こころの相談室」「心の健康観察」導入
「心の天気」で毎日児童・生徒の状況把握

2) スクールカウンセラー中学校全校配置。小学校は約半数の学校に配置
エリア型カウンセラーが6教育事務所で対応
スクールソーシャルワーカーは17名でエリア型による訪問型

3) 教育支援センター体制整備
県教育委員会ホームページで紹介

山田みやこの活動報告

4) フリースクール等民間団体との連携

17か所の民間団体の設置

「岩手県不登校児童生徒連絡会議」にて支援の充実を図る

5) 県教育支援センター「ふれあいルーム」県立図書館内に設置

6) 不登校支援フォーラム年2回開催

R5の不登校者 小学校 843名 中学校 1616名 高校 593名 合計 3052名

・不登校児童生徒の保護者、不登校当事者からの体験談発表

・教育委員会担当者とフリースクール関係者の事例発表

※フリースクールへの公的補助金はなし、フリースクールとの連携が見えてこなかった。

③ 認定NPO法人盛岡ユースセンター センター長の尾形岳彦さんより説明を受けた

設立2010年10月

・スタッフ) 常勤2名 非常勤6名 大学院生1名 大学生2名 ボランティア数名

理事には岩手大学教育学部准教授

・活動内容)

小学1年生から中学3年生対象のフリースクール

高卒資格取得(通信制高校・高卒認定試験)

進路サポート ・セミナー ・保護者会開催

登校ペースは自由

時間: 小学生9:30~15:30 中学生9:30~16:30

保護者の茶話会を毎月最終土曜日10:00~開催

・「不登校」をどう見るか

教育環境の画一性・選択肢のなさの問題で、本人や家庭の問題ではない

自分らしく生きるを応援する、目指すゴールは社会の中で自分らしく生きていくこと

将来の社会的自立を目指す

自立とは「依存先を増やすこと」

全国で10年前より小学生5倍、中学生3.2倍に増加し、統計34万人に

不登校と不登校傾向は44万人~85万人と推計される

・不登校が生まれやすい構造

学ぶ内容やペース、環境が選べない。子ども側が合わせている。子どもの声が反映されていない。

・解決志向アプローチ

できない原因を特定したり、問題点探しをしない

良い所をみる。輝く側面に光をあてると全体が輝く

教科書学習だけでなく、感情面の変化、成長をくみ取る

その子がその子らしく生きることを応援する

※岩手県教委の考え方とフリースクール担当者の間では考え方、捉え方の違いがあり、連絡会議の中で共通認識を得ることが必要と感じた。

盛岡ユースセンターの細やかな子ども達への対応が必ず実る時期が来ることを期待したい。

